

佐賀っ子学力向上プラン

- 学習状況調査の結果を踏まえて -

中学校英語科編



まえがき

子どもたちの学びの環境が大きく変化する現在，各学校では確かな学力の定着と，子どもたち一人一人の豊かな人間性をはぐくむ教育の充実が求められています。

そのような中，佐賀県教育委員会では，基礎学力の定着度や学習意欲等を把握し，指導方法の改善・充実を図るための有効な資料を得るため，平成16年度に小学校第6学年から中学校第3学年までの児童生徒を対象として，学習状況調査を行いました。

その調査結果から，小学校は全国の平均通過率とほぼ同程度，中学校は全国平均より高い傾向が見られました。また，前回（平成14年度）調査の同一問題における平均通過率と比較して，各教科とも同等もしくは5ポイント以上，上回るという結果でした。

しかしながら，小中学校ともに，自分の考えを書いたり，資料を読み取ったりする問題の通過率が低いという傾向が見られ，考える力や表現する力がやや不足しているなどの問題点も明らかになりました。変化の激しい今後の社会を生き抜いていくために必要な「自ら学び，自ら考える力」「問題解決能力」などの基礎となる「思考力・判断力」における課題が見えたとも言えます。

そこで，教育センターにおいても，これらの課題を解決し，本県児童生徒の基礎学力向上に資するために，「プロジェクト研究事業」の一つとして，「基礎学力の向上研究委員会」を立ち上げ，指導方法改善の研究に取り組んでまいりました。具体的には，小・中学校の国語科，社会科，算数・数学科，理科，英語科の学習状況調査結果を分析，考察し，課題の見られる内容領域に絞って，その具体的指導方法を探りました。委員として委嘱した小中学校の先生方と教育センター所員で研究委員会を組織し，理論と実践の両面から研究してきたことをまとめたものが，この「佐賀っ子学力向上プラン」です。

これらの研究の成果が，今後，各学校の授業実践の中で活用され，本県児童生徒の学力向上に役立てられることを願ってやみません。

最後になりましたが，本研究を進めるに当たって，多くの学校や関係機関に多大なご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

佐賀県教育センター所長 宮崎 正則

目 次

平成16年度学習状況調査の結果から	1
-------------------	---

理論編

1 「表現の能力」を支えるもの	2
2 input活動やoutput活動を指導過程に取り入れる	3
3 writing活動について	4

実践編

1 パタン1 帯学習でinput writing活動(展開部分)でoutput (中学1年 均一割少数人数クラスでの授業事例)	6
2 パタン2 帯学習 でinput 帯学習 でoutput 帯学習 で再input (中学1年 均一割少数人数クラスでの授業事例)	13
3 パタン3 帯学習でinput 家庭学習でoutput (中学3年 T1・T2・ALTによるTTでの授業事例)	20

成果

1 input活動 - output活動の循環と帯学習としての位置付け	27
2 input活動 - output活動の組合せ	27

おわりに	28
------	----

平成16年度学習状況調査の結果から

- 「書くこと」「表現の能力」について -

中学校英語の全体的な設問の通過率は、全国平均とほぼ同じでした。しかし、1年生で全国通過率を上回っている「書くこと」及び「表現の能力」が、2年生では低下傾向が見えます。(学習状況調査では、「表現の能力」を「書くこと」の領域で測定しています。)

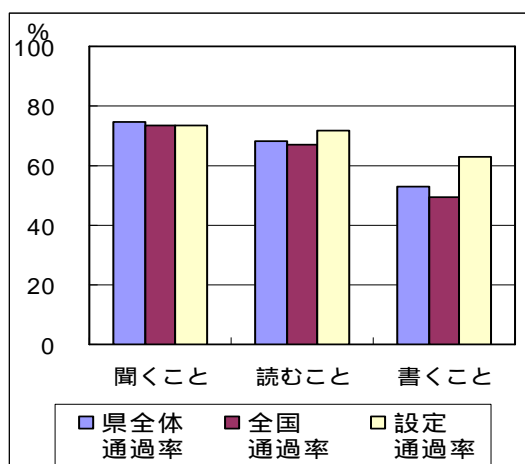


図1 第1学年内容・領域別の通過率

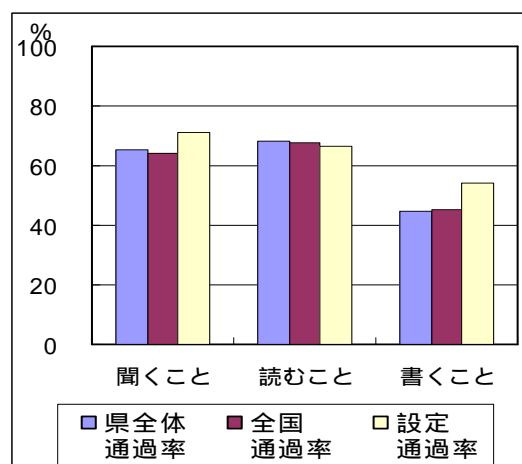


図2 第2学年内容・領域別の通過率

【考察】

第1, 第2学年の「聞くこと」「読むこと」は、全国通過率と比べて、大きな差は見られない。しかし、「書くこと」の領域では、第2学年において通過率が低い。

第1, 第2学年とも、テーマ指定英作文と並べ替え英作文で無解答率が高い。教科書の基本文や定型表現を使って、意欲的に「書くこと」に取り組む指導に課題がある。

学年が上がるにつれて低下傾向が見られる「表現の能力」の向上を目指した、効果的な学習活動とはどのようなもののでしょうか。また、少人数・TT授業の中にどのように取り入れていけばいいのでしょうか。

そこで、研究の内容を
次の点に絞ってみました。

少人数・TT授業に、input 活動や output 活動を帯学習として継続的に取り入れて
表現力の基礎を作り、生き生きと表現する生徒を育てよう

帯学習として、会話表現の練習、3分間 writing chants を取り入れることによって言語知識の input を行い、learned knowledge (学習によって得られた言語知識) の蓄積を目指します。

(中学1年 均一割少人数授業)

授業の導入部分で、帯学習として既習事項の音読による input 活動と chat による output 活動を組み合わせて、目標言語の定着を目指します。

(中学1年 均一割少人数授業)

帯学習として、生徒にとって理解可能な言語レベルに少しだけ新しい情報を付け加えた内容による listening input 活動を行い、acquired knowledge (習得された言語知識) の蓄積を目指します。

(中学3年 TT 授業)

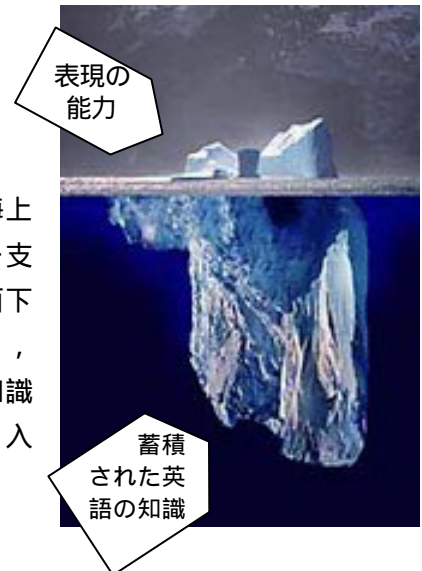
理論編

「英語を話せるようになりたい」「英語で書いてあるメールに返事が書きたい」「映画やドラマを字幕なしで分かってほしい」「英語で相手に自分の気持ちを伝えたい」……これは、生徒一人一人が多かれ少なかれ持っている心の声です。同時に、私たち教師が目指す最終目標でもあります。しかしながら、実際は、「単語の意味が分からない」「教科書に出てくる単語や文が読めない」「基本文を覚えていない」「言いたいことや伝えたいことはあるのだけれど……」という声が聞こえてくるのが現実です。伝えたいことを英語で表現できるためには、何が必要なのでしょう。

1 「表現の能力」を支えるもの

(1) 冰山効果

「話すこと、書くこと」に代表される「表現の能力」は、海上に浮かぶ氷山の一角に例えられます。そして「表現の能力」を支えるのは、「読むこと」「聞くこと」によって蓄積された、海面下を占める大量の英語の知識です。そこで、理解可能で興味深く、自然な英語を効率よく十分に input する活動と、input した知識を使う output 活動を、少人数・TT 授業による指導過程に取り入れていくことを提案します。



(2) input 活動とは

「冰山」の水面下に当たる、英語の知識を増やすための活動を input 活動と呼びます。ここでは、「読むこと」「聞くこと」だけでなく、コミュニケーションの手段としての英語の知識を身に付ける活動やドリル活動も input 活動に含みます。

活動例：パタンブラクティス（口頭練習、書く）、教科書や日常会話集の音読練習、writing、chants、listening input、pattern input、文型ゲームなど

(3) output 活動とは

「冰山」の一角に例えられる、「表現の能力」を使った活動を output 活動と呼びます。自分の気持ちや考えを相手に伝えるなど、コミュニケーションの手段としての目的をもって英語を使用する活動です。ここでは、「読むこと」のうち、「朗読」については、気持ちや内容を相手に伝わるように読む活動ととらえ、output 活動に入れていきます。

活動例：タスク活動、スピーチ（話す・書く）、朗読、chat、ディベートなど

(4) input 活動 - output 活動の循環

「input 活動 - output 活動」の関係をスポーツに例えて、「基礎トレーニング - 試合」ととらえることができます。対話の練習、言うことや書くことによるパタンブラクティス、listening などによる input 活動で蓄積する基礎的・基本的な英語の知識と、知識を使いこなす力（表現の能力）を高める output 活動とは密接な関係があります。input 活動だけでは、身に付けた英語の知識を、いつ・どこで・どのように使えばいいのかが学べません。output 活動だけでは、知識が不足して豊かな表現ができません。input 活動と output 活動を循環させ、「input 活動で知識を蓄積する - output 活動で試してみる - 不足した部分を補ったり、間違った部分を修正して再 input したりする」中で、

コミュニケーション能力を育成しましょう。

少人数・TT 授業の場合、個の習熟度に応じた指導が可能になります。生徒一人一人の個人差を把握し、それぞれの生徒に応じた input - output の量や活動内容のバランスに配慮しながら授業を進めましょう。また、活動量が豊富になるにつれて、エラーも増加します。少人数・TT 授業では、生徒との距離の近さを利用して、エラーに対する修正フィードバックを丁寧に行い、適切・適正な英語を再 input することができます。

修正フィードバックって何ですか？ いつするんですか？
気を付けることは？



修正フィードバックとは、生徒の output 中のエラーに対して、教師が修正する意図をもって行うフィードバックのことです。

《修正フィードバックの方法》

明確にエラーを示す場合は、文法規則を教える方法があります。

暗示的にエラーを示す場合は、次の3つの方法があります。

- ・ recast (教師による言い直し)
- ・ repair (生徒の再発話による自己修正)
- ・ 指導者が顔の表情を変えたりして、生徒の意識を言語的な誤りに向けさせる。

《修正フィードバックのねらいと仕方》

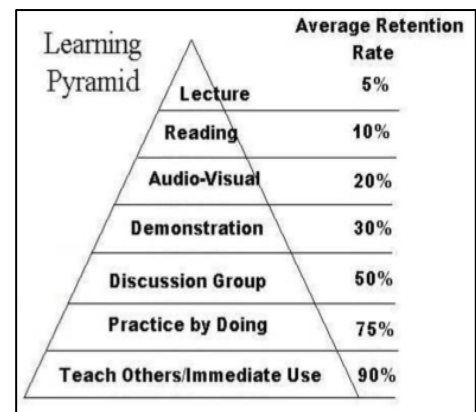
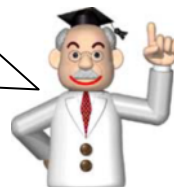
正確な英語を身に付ける(accuracy)

- ・ 音声面： その場で recast 又は repair しましょう。
- ・ writing： 生徒の個人差に応じた方法を適宜選択します。なるべく暗示的にエラーを示し、どこを修正すればよいのか考えさせましょう。自分のエラーに気付き、修正した生徒をミニティーチャーとして「教え合い学習」に発展させましょう。学習活動別に見た学習事項の定着度を示す Learning Pyramid によると、「学んだことを友達に教える・すぐに知識を使ってみる」活動による学習事項の定着度は、90%に達します。

場に応じた適切な表現を身に付ける(adaptability)

- ・ 一人一人の発話や作品をモニターし、その場で recast 又は repair による修正フィードバックをしましょう。

修正フィードバックは、情意フィルタが低いほど、生徒に抵抗なく受け入れられます。一人一人の性格まで把握した上で、個に応じた方法を選んで、その場で行うと、効果的です。



National Training Laboratories
Bethel, Maine

2 input 活動や output 活動を指導過程に取り入れる

(1) 帯学習として取り入れる

input 活動や output 活動を指導過程に取り入れていく際、「継続的に取り入れる」と、「循環させる」ことがキーワードになります。そこで、日々の授業の中で活動の循環を継続的に取り入れる手立てとして、input 活動や output 活動を帯学習として位置付け、継続的・計画的に行なうことで、以下の効果をねらいます。

効率的な知識の蓄積と習得

学習習慣の形成

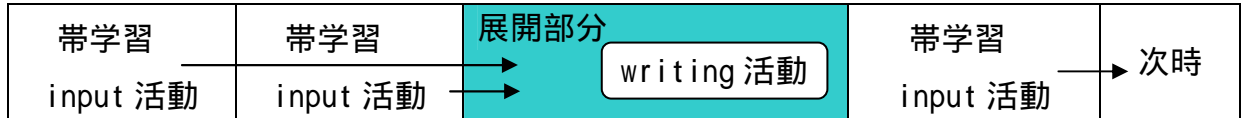
ここでは、「帯学習で行なう活動と単元の学習内容を関連付けることによって教科書の進度を妨げない」ものを中心に提案します。教科書で取り扱われている基礎的・基本的な言語事項を、input

活動で知識として確実に蓄積し，output 活動で使うことによって定着を図ることを，指導過程に継続的に取り入れます。

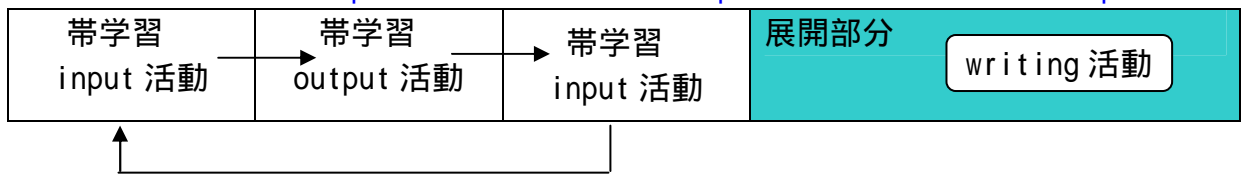
(2) 帯学習の位置付けと活動の循環

今回，次の3パタンの指導計画により授業を行いました。パターン1～3のいずれも，授業の最初や最後に帯学習を取り入れています。また，展開部分には，それぞれの活動に応じた「書く」活動を「writing 活動」として取り入れています。「input - output の循環」もそれぞれ異なっています。

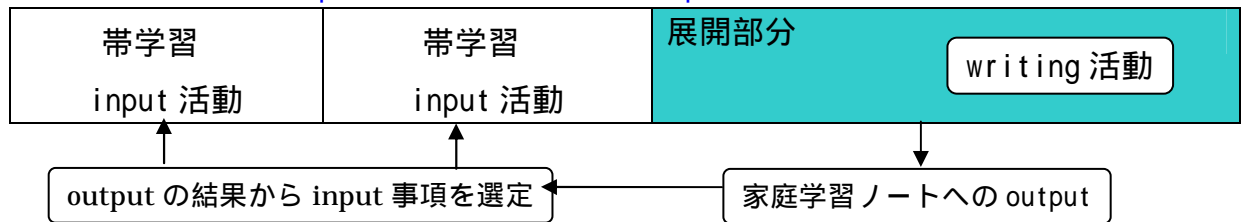
パターン1 帯活動で input writing 活動（展開部分）で output



パターン2 帯学習 で input 帯学習 で output 帯学習 で再 input



パターン3 帯学習で input 家庭学習で output



3 writing 活動について

展開部分には，指導内容に応じて writing 活動を2種類設け，3年間の指導過程に継続的に取り入れていきます。

- ・ creative writing : output 活動です。スピーチや，スキットのスクリプトを書いたり，エッセイ，メール，マンガの吹き出しを書いたりします。
- ・ 仕上げ writing : 展開部分で行うコミュニケーション活動のまとめとして，口頭で練習した内容をワークシートなどを書くことで定着を図ります。ドリル的な意味合いの強い活動です。

【少人数指導とは】

佐賀県では、平成 17 年度より、個に応じた指導の拡充を行い、中学 1 年生のすべての英語の授業で少人数指導が始まりました。このことにより、従来のクラスサイズより少人数の学習集団で教科指導ができるようになりました。国立教育政策研究所の「指導方法の工夫改善による教育効果に関する比較調査研究」では、授業を以下の 7 タイプに分けて比較調査を行いました。

- 35～40 人学級一斉指導
- 25～30 人学級一斉指導
- 15～20 人学級一斉指導
- 30～40 人 TT 一斉指導
- 15～20 人均一割一斉指導
- 習熟度別学習（到達度別学習）
- 習熟度別学習（完全習得学習）

このうちの ～ が「少人数指導」に当たります。

本研究では、このうちの を「TT 授業」、 ～ を「少人数授業」ととらえています。この少人数指導の中で、英語の基礎・基本の力である音声、語彙、基本的な文の構造を身に付けるために、生徒の能力や個性などに応じた効果的な指導方法を探っていきます。

【少人数指導の長所】

少人数・TT 授業によって、次のようなメリットが生まれます。

- 1 指導の効率化を図る
 - ・ 英語の基礎・基本を身に付けるための活動を多く取り入れ、徹底した指導ができます。活動量が増えると、生徒は、質の良いたくさんの英語に触れることができます。
 - ・ 発言しやすく活動しやすい学習の場を設定することが容易になります。コミュニケーション活動の場を多く設定し、言語活動を充実させることができます。
- 2 指導の個別化・個性化を図る
 - ・ 個人差を把握し、個に応じた指導を充実させることができます。習熟度や達成度の差に応じた指導や、学習スタイルの違いに応じた指導が可能になります。

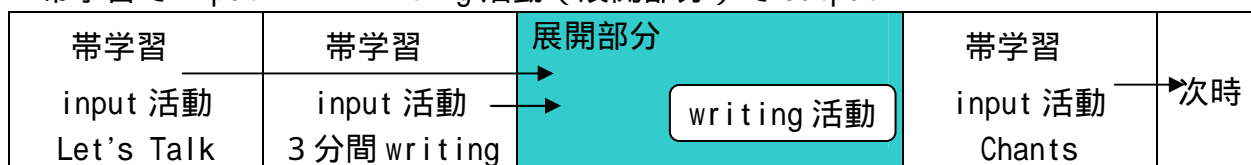
佐賀県教育委員会編集の指導資料『FIRST STEP』には、次のような具体的なメリットも挙げられています。

関心・意欲を高めることにかかわるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内で行う教師同士のデモンストレーションによって、生徒の興味・関心を高めることができる。(TT) ・ 上位の生徒に更なる満足を与えることができる。
基礎・基本（理解）にかかわるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の苦手な生徒のケアができる。 ・ 机間指導が増え、質問やつまづきに個別に対応しやすくなる。 ・ コンピュータを使った授業がスムーズに行える。
表現の能力を高めることにかかわるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒との会話が増え、インタラクションが増加する。 ・ スピーチやスキットの発表がスムーズに行える。
評価にかかわるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接法による評価が可能になる。 ・ 作文指導も時間内に添削し返却することができる。 ・ 教師一人当りのノートやワークシートの点検数が少なくなり、より綿密な修正フィードバックができるようになる。

実践編

1 パタン 1

帯学習で input writing 活動（展開部分）で output



中学 1 年 均一割少人数クラスでの授業事例

(1) 単元について

ア 三人称単数現在形（以下，三単現と表記）

三単現は，第 1 学年の指導内容の中で，最もつまずきやすいポイントの一つです。

文型を導入する場面では，生徒にとって身近な話題の中で，一人称・二人称現在形の文との違いに気付かせましょう。新出構文の提示にも，工夫しましょう。



単元の指導過程の展開部分においては，「人の紹介，人についての対話」という場面設定の中で，三単現がどのように使われているのかについて理解を促し，スピーチを書かせたり，発表をさせたりする中で，定着を図りましょう。

イ 指導の特徴

均一割学習集団での一斉指導において，帯学習による input 活動を取り入れます。

帯学習 Let's Talk... 定型会話表現集を使って，ペアで会話練習をします。毎時間の積み重ねの成果を，各学期末の日常会話のインタビューテストで確認します。

帯学習 3 分間 writing... 本時に学習する文型に関係のあるトピックを 3 分間でできるだけたくさん書きます。「書くこと」に毎時間取り組むことによって，表現力の基礎作りをします。

帯学習 Chants... 本単元で学習する文型を，毎時間リズムよく練習し，知識の定着を図ります。

ウ 本単元における「input - output の循環」

帯学習 3 分間 writing で，“三単現の s”に関する語や文をドリル活動として書きます。

（input 活動）

展開部分の帯 writing で，スピーチの原稿を書きます。（output 活動）

教師が原稿に修正フィードバックを行います。

生徒は，原稿を修正して，正確で適切な英文を再 input します。

エ 本単元における「writing 活動」

展開部分に 2 種類の writing 活動を設けました。

creative writing：スピーチの原稿を書きます。

仕上げ writing：展開部分の学習活動のまとめとして 3 分間 writing の要領で実施します。

(2) 単元の指導目標

言語活動への取組を通して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育てます。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

文の内容を理解し、正しく音読させます。

【理解の能力】【表現の能力】

三単現について理解し、人を紹介したり、人について対話を行ったりする中で適切に用いて表現させます。

【言語文化に関する知識・理解】【表現の能力】

(3) 評価計画と単元の流れ (全5時間)

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		言語や文化に関する知識・理解		単元の流れ			
	言語活動への取組	コミュニケーションの態度	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語や文化についての知識	文化についての理解	帯学習	帯学習	展開部分	帯学習
単元	WR	S	RW	S	LR		SW					
UNIT 6		S										
1時間目		S										
2時間目				S			S					
3時間目 (本時)	W											
4時間目		S	W			L		W				
5時間目	R		R		R							
						L						
	W						W					

3時間目の Quiz Show で使用する一般動詞を見越して、事前に計 24 の肯定文・否定文を input しました。生徒たちは、Quiz Show の原稿作成や 3 分間 writing の際に、1, 2 時間目に使用した input 用のワークシートを活用していました。また、Quiz Show の解答の際にも、理解に役立てていました。

(4) 帯学習の実際 (3 / 5 時)

帯学習

input 活動

Let's Talk

定型会話表現のワークブックを使って、ペアで会話の練習をします。1分～1分半で役割交代をして、なるべくたくさんの文を口頭練習します。最初は未履修の文法事項が多いのですが、理屈抜きで早い段階から口頭練習を行っているうちに、次第に定型会話が言えるようになります。後日、教科書の中で該当の文型が出てきたとき、「あのときのあの表現はこういう文法だったんだ」と分かり、定着度が高まります。

定型会話表現集 『Let's Talk』 (1)

教科書中の文法出現

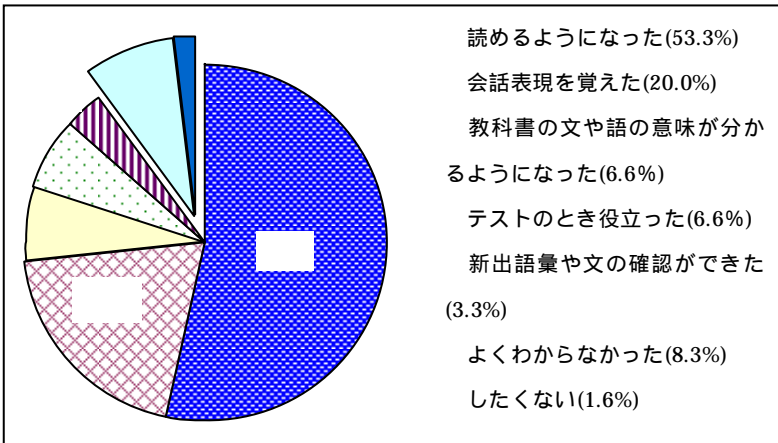
A (話しかける人)		B (話しかけられた人)	
1 What day is it today?	今日は何曜日ですか?	1 It's Thursday.	木曜日です。
2 What's the date today?	今日は何日ですか?	2 It's February 4 (fourth).	2月4日です。
3 What time is it now?	今、何時ですか?	3 It's nine o'clock.	9時です。
4 How is the weather today?	今日の天気はどうですか?	4 It's sunny (cloudy, rainy, snowy).	晴れです。(曇り、雨、雪)
5 Do you play tennis every day?	あなたは、毎日テニスしますか?	5 Yes, I do. I play after school. Yes, I do. I play tennis after school. No, I don't. I play baseball every Sunday.	はい、放課後にそれをします。 いいえ、野球を毎週日曜日にします。
6 How many classes do you have today?	今日は何時間授業ですか?	6 I have six classes.	6時間です。
7 How long are the classes?	何分授業ですか?	7 They're fifty minutes long.	50分授業です。
8 What's your favorite subject?	好きな教科は何ですか?	8 I like science. It is interesting.	理科です。それはおもしろいです。
9 What subject do you like?	どんな教科が好きですか?	9 Yes, I do./ No, I don't.	あります。/ ありません。
10 Do you have a test today?	今日はテストがありますか?	10 Thank you.	ありがとうございます。
11 Good luck.	がんばってね。	11 I play baseball. / I practice the flute. I'm a member of the baseball club.	私は、野球をします。 / 私はフルートを練習します。私は、野球部の一員です。
12 What do you do after school?	放課後、何をしますか?	12 It's mine. / It's Ken's. / It's yours.	それは私のです。 / ケンのです。 / あなたのものです。
13 Whose notebook is this?	このノートは誰のですか?	13 I get up at six every morning.	毎朝6時に起きます。
14 What time do you get up?	あなたは何時におきますか?	14 I have cereal.	シリアルを食べます。
15 What do you eat (have) for breakfast (lunch/dinner)?	あなたは朝食(昼食/夕食)に何を食べますか?		

NEW HORIZON English Course

1	Unit 5	p48
2	Unit 10	p93
3	Unit 7	p58
4	Unit 7	p58
5	Unit 3	p28
6	Unit 5	p44
7	Unit 6	p56
8	Unit 4	p36
9	Unit 5	p49
10	2年生で学習	
11	Unit 7	p66
12	Unit 8	p70
13	Unit 7	p66
14	Unit 4	p38

【自由記述式によるアンケート集計】

Q：自分にプラスになったことや気づきを書いてください。



10月に行った Let's Talk の 3, 4, 11, 13 番は, 教科書では 11 月の半ばに履修しました。教科書の文法の並びを先取りする形でこの活動に取り組んでいたため, 「こういうときはこう言う」という感覚が既に身に付いていて, 文法を学習するときにも理解が早く, 定着度も高くなりました。



グラフの結果から, 「効果があった」と感じている生徒が約 90%いることが分かります。少人数指導の利点である, 生徒との距離の近さを更に生かして, 丁寧にモニターし, 個に応じた修正フィードバックを的確に行うことで, 全員が「分かった」と感じる活動になります。

帯学習

input 活動

3 分間 writing

「英語を聞いて分かる」「正確に言えなくても, おおむね意思を伝えることができる」けれども, 「正確に書き表せない」といった「書くこと」を苦手とする生徒は, 学年が上がるにつれて増えてきます。そこで, 表現力の基礎を築くために, 帯学習として「書くこと」に毎時間取り組みます。ここでは, 三単現について学習しますので, 「一般動詞 一般動詞 + (e)s 三単現を含む文章」と, 単元を通して難易度を上げていき, 語彙や文型の定着を図ります。

学年の掲示板上に, 3 分間 writing の課題をはりました。現在学習中の言語材料が明確になりました。生徒はこの掲示版を見て 3 分間 writing の事前準備ができます。



書くスピードが上がってきました。

少しでも多く書くために, 教科書を見ずに書けるように, 覚えて取り組みました。



単語や文を, 書きながらたくさん覚えました。

3 分間 writing 用のノートは, B5 ノートを三分の一に切ったものです。3 分間で書ける量とつりあった大きさでもあります。また, 持ち運びしやすく, プリントと違って管理が容易です。



集中して取り組んでいます。

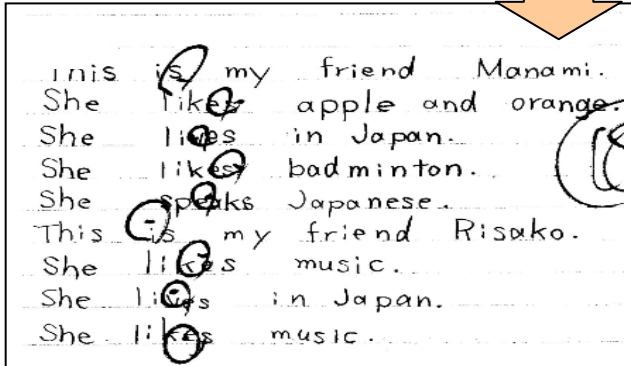
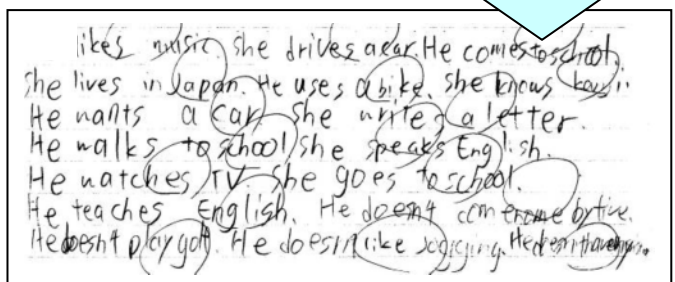
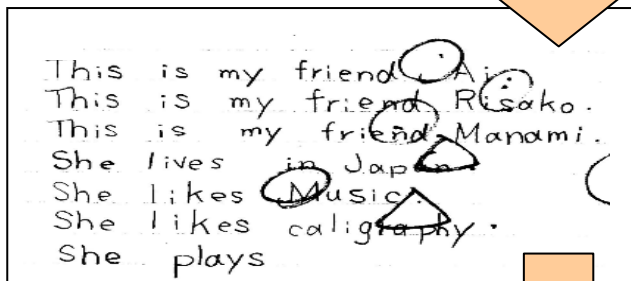
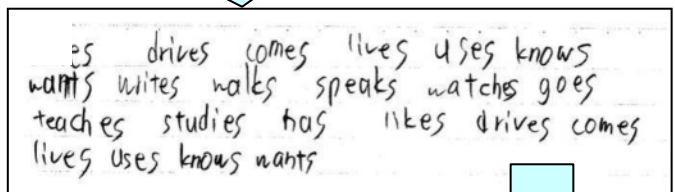
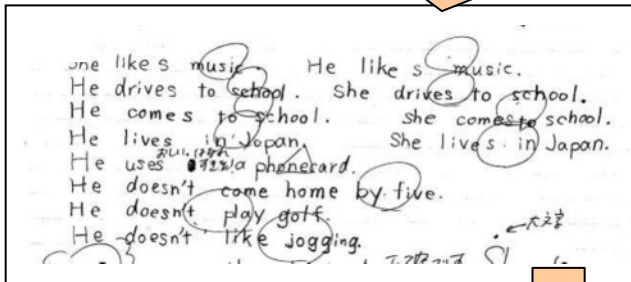
【生徒のノートより】

(生徒 A のノートについて)

では、ワークシートの例文を写しています。小さな間違いがあります。では、友達のことを書いています。3分間という時間制限内に書ける文章量と種類が、回を追って増えています。

《生徒 B のノートについて》

単語レベルの3分間 writing から始め、文章へと発展した例です。はワークシートの例文を写しています。この段階で小さな間違いを正しておきましょう。ノートへのコメントで、日々の成長を励ますことも大切です。



【指導の成果】

3分間 writing に取り組んだところ、書くスピードがアップした
記述式テストの表現の能力を見る問題に意欲的に取り組むようになった
集中力が高まり、活動に取り組む姿勢が良くなった
学習プリントを参考に書いていいので、ファイル忘れが減った
などの変化が見られるようになりました。



展開部分

creative writing (原稿作成) 修正フィードバック 再 input (音読・暗記)

Quiz Show

ここでは、前時にペアで書き上げた人物紹介のスク립トを使って Quiz Show をします。スク립トを書く段階では、丁寧に修正フィードバックし、正確な英語を input します。本時は、英語の蓄積を行うために、スク립トを覚えて発表させます。自分が作った文章を覚えることにより、定着度のアップをねらいます。スピーチやスキットの発表の前には十分に音読練習の時間を取りましょう。ここでは、Quiz Show で発表する文章を相手に伝えるように読めるか、最終確認のための練習を行わせます。教師は、机間指導しながら、つまずいている生徒に最終的な recast 又は repair を行います。発表の際、評価をしますので、評価項目については、事前に生徒に知らせておきましょう。

【生徒スピーチ原稿より】

生徒 C

She liking kukiing

from Fukuoka

Fuguta Sazae

friend is Taiko

she has one brother and one sister.

Her birthplace is Fukuoka.

Example)

Now she lives in Asahigaoka

She has a friend Her name is Taiko

She has one brother and one sister

She likes cooking.

She has six people in her family and one

she is twenty-four.

スピーチの構成を mapping します。書きたいことや単語を整理できます。

mapping がうまくできると、スクリプトが簡単に書けます。正しい英文が書けているかについても、修正フィードバックしましょう。

生徒 D

like Dorayaki.

I like mouse

Doraemon

You speak Japanese

live in Japan

Example)

e likes dorayaki.

e lives in Japan.

He speaks Japanese

He doesn't like mouse.

who is he?

output 活動 (スピーチ発表)

Quiz Show

発表は教室の前に出て行きます。発表に対する評価のポイントは下の3つです。口頭による発表は「話し言葉」に近いので、エラーが多く含まれることが予測されます。評価をする際は「コミュニケーションへの態度」の項目に絞り込みましょう。

【評価の視点】

- 覚えているか
- 伝えようとしているか (eye contact をとっているか)
- 声の大きさは適当か



発表場面の進行を A L T に任せると、評価に集中することができます。また、スピーチに対する感想をそれぞれの発表の後に一言述べましょう。次の活動への意欲につながるようなコメントをします。

発音やピッチの正確さ・自然さに対する評価は、教科書など全員が同じスクリプトを使用した方が、適切な評価ができます。

Check The Point

本時の展開部分において、input 活動を通して習得した“三単現の s”を含む文章を用いて、身の回りの人について説明する output 活動を行ないました。Check The Point では、ワークシートの問題を解いて、文構造に関する知識の定着度について、最終確認を行います。

問題を解き終わった生徒は教師のチェックを受けます。チェックを受けた生徒は、ミニティーチャーとして、隣の席の自分のペア・パートナーの質問に答えたり、説明したりします。

ここでの Check The Point の結果より、「“三単現の s”を含む否定文」の定着度が低いことが分かります。帯学習 3 分間 writing の課題として取り上げ、時間を掛けて定着させていきましょう。

CHECK THE POINT [3単現のS]

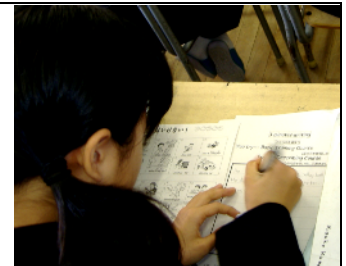
- ① 次の日本文に合う英文になるように()に適する語を選びなさい。
- 太郎は九州に住んでいます。
Taro () Kyushu.
ア live in イ lives in ウ live from
 - 恵子はとても一生懸命に勉強します。
Keiko () very hard.
ア studies イ doesn't study ウ study
 - 私の弟は新しい自転車を欲しがっています。
My brother () a new bike.
ア wants イ doesn't want ウ don't want
 - 加藤さんは英語を教えていません。
Mr. Kato () Japanese.
ア don't teach イ doesn't teach ウ teaches
- ② 次の英文を指示に従って書きかえるとき、()に適する語をア～エから選びなさい。
- I live in Tokyo. 明子を主語に
Akiko () in Tokyo.
ア live イ lives ウ does lives
 - I play tennis. 健二を主語に
Kenji () tennis.
ア play イ do play ウ plays
 - He doesn't study Japanese. 「勉強します」という意味の文に
He () Japanese.
ア study イ studies ウ doesn't study
 - Mr. Kato uses pencils. 「使わない」という文に
Mr. Kato () pencils.
ア doesn't use イ don't use ウ uses

問題番号	正答率 (%)
1 1	8 0
1 2	8 8
1 3	9 2
1 4	6 8
2 1	8 0
2 2	8 4
2 3	7 2
2 4	6 8
平均正答率	
7 9 %	

“三単現のs”を含む否定文

仕上げ writing

ここでのライティング活動は、言語材料定着の仕上げ段階に、定期的に取り入れていく活動です。本時は発展的活動 (Picture Describing) と基本的活動 (更に定着させたい文を練習する) の2つの活動を準備しました。この活動では生徒が自分で課題を選び、主体的に活動に取り組んでいる姿が見られました。本時のこの活動では、発展的活動を選択した生徒が1名、基本的活動を選択した生徒が24名でした。次のUnitでは、発展的な活動への取組を自信をもって選択する生徒を育てることが課題となります。



「書くこと」には時間が掛かります。また、苦手だと思っている生徒も多くいます。しかし、ここに示した生徒作品から、「書くこと」に継続的に取り組むことで、内容も文法も整ってくるのが分かります。様々な方法で「書くこと」を授業に取り入れていき、表現の能力の基礎を築きましょう。

【生徒Eの作品の変化】

she likes music. she drives to school. a car. He comes to school. He likes ramen. He plays volleyball. He does judo. uses a computer. He writes haiku. He uses a computer. good.

1. she is from saga sty.
2. she likes dogs.
3. she eats cake.
4. she likes TV.
5. she uses computer.
6. who is she?

He likes ramen. He plays volleyball. He does judo. He uses a computer. He writes haiku. He walks in the park. He watches TV. He drives a car. She

帯学習 3分間 writing

creative writing スピーチ

まとめ writing (3分間)

は、ワークシートや板書を参考に書いています。7文書いていますが、文構造が定着不足で間違いが見られます。この段階のノートには修正とアドバイス、励ましの言葉を丁寧に書きましょう。

は、p.10のmappingを基に書いたスピーチです。小さな間違いがあります。また、発表に向けて、音読練習のための準備をしていることが分かります。生徒は、このスクリプトを暗記して発表に臨みますので、正確で適切な英語に修正するよう促します。

は、スピーチの後、input-output活動の仕上げ段階に書いたものです。ワークシートを参考に書きました。帯学習と同じ3分間での取組です。8文書き、間違いがなく、文字も丁寧です。

まとめ

帯学習

input 活動

Chants

Chants では、リズムに乗って、定着させたい言語材料を何回も、無理なく練習することができます。リズムよく毎時間文型を練習することで、いつの間にか言語材料が定着していきます。Chants の代わりに言語材料を含む歌を使用することもできます。そのときは、生徒の作品を採用しましょう。

Chants は、chorus reading 方式で一斉に活動するので、意味を考えずに機械的に取り組む生徒が出てくるという問題もありますが、少人数指導の利点を最大限

に生かして、一人一人をモニターし、修正フィードバックを通して、早い段階で発音やリズム、意味を丁寧に指導しましょう。



ワンポイント紹介【新出構文一覧表の提示方法】

“三単現の s” は、日本語にはない文法です。一覧表を使って視覚的に提示する場合は、フラップを活用して、見やすく分かりやすくということを心掛けましょう。黒板に貼った一覧表はプリントして、生徒の手持ち資料に加えましょう。

《黒板掲示用》

Do	you	I	don't
Do	you	I	don't
Do	you	I	don't
Do	you	I	don't
Do	you	I	don't
Do	you	I	don't
Do	you	I	don't

列 の入れ替えフラップ

doesn't
doesn't
doesn't
doesn't
doesn't
doesn't
doesn't

列 ,
の間に貼る

He	She	walk		to school
He	She	speak		English
He	She	watch		TV
He	She	go		to school
He	She	teach		English
He	She	stud	y	Japanese
He	She	ha	ve	rice for breakfast

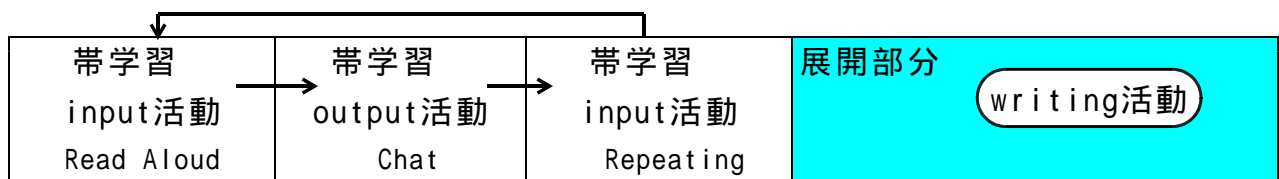
列 列

s
s
es
es
es
ies
s

列 に貼る
フラップ

2 パタン 2

帯学習 でinput 帯学習 でoutput 帯学習 で再input



中学1年 均一割少数人数クラスでの授業事例

(1) 単元について

ア 時刻や天気の見方

時刻や天気の見方は、親しみやすく理解しやすい単元です。英語に苦手意識をもち始めた生徒に、自信をもたせるよい機会です。

単元の指導過程のうち、新しい文型を導入する場面では、flash cardや picture card（ここでは天気マークを使用しました）などを使用して、テンポよく文型を確認していきます。



input活動をしたら、output活動をしましょう。「話すこと」につながるinput - outputの循環と、「書くこと」につながるinput - output - 再inputの循環を提案します。少数人数授業の利点を最大限に生かす修正フィードバックを行いましょう。

イ 指導の特徴

均一割学習集団での一斉指導において、「話すこと」につながる帯学習を取り入れ、「input - output - 再input」の循環を起し、表現力の基礎を培います。

帯学習	Read Aloud ...教科書の最初から学習中のページまでの音読を集中して行い、内容の確実な習得を図ります。	(input 活動)
帯学習	Chat ...帯学習 で input した英語の知識を統合し、与えられた場面に応じてペアで対話を行うタスク活動です。	(output 活動)
帯学習	Repeating ...新出構文や最近学習した言語材料を、リピーティングを十分に行うことで正確な発音やアクセントを定着させます。	(再 input 活動)

ウ 本単元の展開部分における「input - output - 再inputの循環」と「writing活動」

flash card, picture card などを活用して新文型の口頭練習を行います。(input 活動)
 コミュニケーション活動(本時は Information Gap Game)で新文型を使います。(output 活動)
 コミュニケーション活動での発話内容をワークシートに書き出し、復習します。(再 input 活動)(仕上げ writing)
 ここから先を帯学習 タスク活動につなぎ、運用力を高めていくことをねらいます。

(2) 単元の指導目標

言語活動への取組を通して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育てます。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

文の内容を理解し、正しく音読させます。

【理解の能力】【表現の能力】

時間や天気についての対話について理解し、対話を行なう中で適切に用いて表現させます。

【言語文化に関する知識・理解】【表現の能力】

(3) 評価計画と単元の流れ (全6時間)

評価の観点 単元	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		言語や文化に関する知識・理解		単元の流れ			
	言語活動への取組	コミュニケーションの態度	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語や文化についての知識	文化についての理解	帯学習	帯学習	帯学習	展開部分
UNIT 7	SRW	S	RW	SW	R	L	SW	R	Read Aloud	Chat	Repeating	展開部分
1時間目	S	S	W	W			W					
2時間目				S			SW					
3時間目 (本時)	R		R		R			R				
4時間目							W					
5時間目	W			W			W					
6時間目		S				L						


(4) 帯学習の実際

帯学習
input活動

Read Aloud

教科書を使って、個人で音読練習をします。ペアで取り組むときは、弾丸インプットのように活用することもできます。(「弾丸インプット」は埼玉県春日部市立大沼中学校(平成15年度)の川村光一先生が提唱されている指導方法です。)この授業では、教科書の pp.12~40を2分間で読むように指示を出しました。時間やページ数など、具体的な目標を示すことで、生徒は前向きに音読に取り組んでいます。速く読める生徒は1分30秒くらいで読めるようになりました。また、2分10秒程で全員の生徒が読み終わるようになりました。

活動の際、「立って読み、読み終わったら座る」という約束事を決めておくと、活動の進捗状況が一目で分かります。机間指導の際には、一人一人の音読に耳を傾け、正確さや適切さについて、的確なフィードバックを行いましょう。どの生徒にも、向上したところを取り上げて、「昨日よりだね」と、具体的に伝えることが大切です。ただし、速く音読させることによって、発音、アクセント、イントネーションが崩れることがあります。教師のこまめな丁寧な修正フィードバックが必要です。




なぜ音読に
こだわるのですか？

音読って
どんな効果があるのですか？

音読は万能薬です！

英語は「言葉」です。言葉は、使うことによって上達します。常に会話をしたり、メールをする相手がいれば上達が早くなりますが、普段の生活や授業の中では、なかなかそういう機会に恵まれません。しかし、授業の中で音読を十分に取り入れることによって、次のような効果をねらうことができます。

- ア 目と耳と口を結び付けて音読し、五感を使って英語を習得できます。
- イ 語順が自然に身に付きます。
- ウ 発音やリズムに気を付けて読む指導をしましょう。リスニングの向上に役立ちます。
- エ 同じフレーズを繰り返し input することで、知らないうちに自然と習得できます。



帯学習

output活動

Chat

帯学習 では、既習事項をスピーディに音読することによる input 活動を行いました。input 活動では、効率よくたくさんの英文に慣れ、英語の蓄積量を増やすことができます。しかし、output の機会がなければ、「自分の力で表現できること」と「表現したいけど表現できないこと」とのギャップに気付くことができず、相手からフィードバックを受けることもできません。フィードバックは、学習者が自分の言語表現が正しいのか、間違っているのかを判断する上で重要な情報となるため、output 活動に対するフィードバックは、なくてはならないものです。そこで、既習の言語事項を使って、ペアで対話をするタスク活動の時間を、帯学習 として設けました。

会話練習を行う際は、英語の機能や英語が使われる場面を意識することが大切になります。具体的な場面をイメージしやすいか、という面にも配慮して、ワークシートを作りましょう。

【タスク例】

A 4の半分程度の紙に「指令」を印刷して配布します。生徒はその「指令」に基づいて、ペアでの会話練習を事前に行い、この帯学習に臨みます。「指令」には、会話のマナーや会話の続け方などもさりげなく盛り込みましょう。帯学習 で input した知識を、場に応じて使おうとしているか、個別にモニターし、必要に応じて修正フィードバックをしましょう。

活動中に明らかになる定着不足の部分や補足したほうがよい部分は、帯学習 で再 input します。



1年生英語Bコース

指令 すべて英語で話さない。ペアで練習を積んでおきなさい。

朝、友達に会ったあなたはあいさつをします。元気がどうか聞きましょう。
> 聞かれた人は答えましょう。相手のことも聞くのがマナー。

今日の話題はテレビ。相手に「ドラえもん」を見るか聞きましょう。Do you watch Doraemon?
> 「はい」「いいえ」などと答えます。How about you?が使えるといいですね。

相手に動物、スポーツ、音楽が好きか聞きます。Do you like ~?
> 「はい」「いいえ」など答えます。

続けて、What () do you like?と突っ込んで聞ければ更にグー。ここで終わってもいいけど、昨日学習したプリント23の会話を続けられれば、もっともっとグー。

別れのあいさつをします。

帯学習

再input活動

Repeating

音読活動では、正しい発音やアクセント、イントネーションが求められます。学習してまだ日が浅い單元については、flash card で単語の意味と発音を再確認した後、repeating を十分に行いましょう。また、帯学習 で定着度が低かった表現や、全体で押さえておいた方がよい発音なども、この時間帯に再度確認し、練習させましょう。

ここでは、CD やカセットテープ使った repeating について説明します。効率よく repeating を行う工夫として、最初は文と文の間のポーズに1回リピート、スピードに慣れてきたら2回リピートさせます。また、発展した活動として、以下の方法にも取り組みましょう。

1回リピート



2回リピート



paced reading



shadowing

CD やテープを編集して、1 単元まとめて repeating できるようにしておく便利です。

【生徒の声より】

辞書引いて
みようかな？



Read Aloud

昨日よりも早く読
めるようになった！
嬉しいな。



Repeating

この単語はなんと読むんだろ
う。先生に聞いてみよう。

さっきの会話、こういう
ふうに言えばよかったんだ
な。次は使ってみよう。

こんなふうに読む
のか。次のchatで使
ってみよう。

repeatingとshadowingって、
どう違うんですか？



repeatingとshadowingは、どちらも聞こえてきた音声を発生する練習方法で、英語らしく自然な音声を身に付けることができ、知らず知らずのうちに英文も覚えてしまうことができます。



repeating は CD やテープ、モデルの音声を耳で聞き、それを再現する練習方法です。必ずネイティブスピーカーの発音の通りに繰り返すので、発音を正確に覚えることができます。

shadowing は CD やテープ、モデルの音声がかつた直後、又は、ほとんど同時に復唱する練習方法です。発音、イントネーション、ポーズまで、モデル音声を影を追うように付いて再現します。

展開部分

input活動（新文型の口頭活動）

output活動（コミュニケーション活動）

再input（仕上げwriting）

本時の展開部分では、目標である「時間や天気についての対話」を提示し、口頭練習によって習得させていきます。「時間や天気についての対話」は一学期より毎時間、授業の導入の opening conversation で生徒に問い掛けてきたものなので、生徒にとっては、理解しやすく親しみやすい単元でした。この、理解しやすく、ごく身近な場面で使用される表現を、確実に習得させて表現力の基礎とするため、「口頭によるinput活動 - コミュニケーション活動を用いたoutput活動 - 書く活動による再input活動」という活動の循環を取り入れました。

input活動

Target Input

ここでは、基本文を分かりやすく提示し、効率的に習得させることが大切です。まず、基本文がどのような場面で使われるのかを具体的に示し、用法を理解させてから口頭練習を行わせます。ここでは、picture card を使って基本文の口頭練習を行わせました。picture card を使った文型入れ替え練習は、日本語の説明を最小限に抑えることができます。音声情報だけでなく、視覚からも、具体的なイメージを生徒にもたせ、定着を図りましょう。

少人数指導では、whole group repeating, individual repeating のいずれにおいても、練習量が増えます。カードの量は多めに準備しましょう。

一人一人の習熟度を考えて、時計はデジタル（写真1）とアナログ（写真2）を準備し



写真1 デジタル時計



写真2 アナログ時計

ました。時刻によってはデジタル表示の方が視覚的にもイメージをとらえやすかったようです。日本語を使わなくても十分理解ができていました。

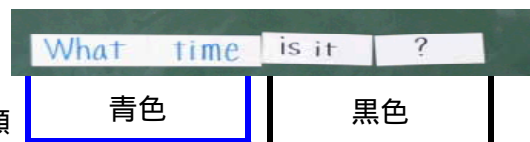
天気についての picture card は、絵の下に文字を付けています。生徒の理解度を測りながら、適宜、文字の部分折り曲げて、絵の部分だけ見せることもできます。少人数授業では生徒との距離が近いので、picture card の用紙サイズが B 4 でも、十分に情報を伝えることができます。



picture card で口頭練習を行った後、flash card を使って単語の音読練習や新出構文の整理をします。ここで使用している flash card は、マグネットシートをはっているので、カードの移動が容易にできる点が優れています。文型を導入する際、以下の手順で文章を拡張していくと、無理なく理解を図ることができました。

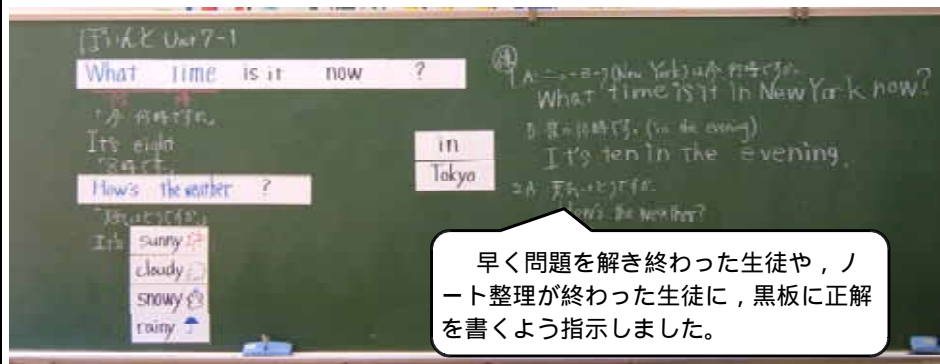
What time ? ... repeat
 What time is it ? ... repeat
 What time is it now ? ... repeat
 What time is it now in Sydney ? ... repeat

target の言語材料を視覚的に意識し、定着を促すために、特定の言語項目を目立たせました。ここでは文字の色を変えました。生徒との距離が近いので、従来よりも多くの種類の文字色を使用することが可能になります。



品詞によって色を決めておくと、知らないうちに語順へも注意が向くようになります。また色カードの使用も理解を助けます。カード自体の大きさにも配慮しましょう。配布プリントでは色文字を使うことができないので、フォントを変える、太字を使うなどして、習得すべき target が何なのか、一目で分かる工夫をしましょう。

flash card による文型の確認が終わったら、そのまま板書に活用します。どこが授業のポイントなのか、誰にでも一目で分かる板書を心掛けましょう。ここでは、構文の提示と共に、練習問題を板書し、解くように指示しました。



早く問題を解き終わった生徒や、ノート整理が終わった生徒に、黒板に正解を書くよう指示しました。

少人数授業のメリットを生かし、時間内に全員のノートをチェックして、エラーの修正フィードバックをこまめにしましょう。この個別のチェックを ALT との TT

で行うと、効率よくでき、一人一人の生徒に対するフィードバックも、更に丁寧に行うことができます。綴りや表記上のエラーは、案外共通している場合があります。その場合は、適宜、クラス全体で共有し、確認します。修正フィードバックは、一人一人の生徒の活動を丁寧に見取っていく、大切な作業です。分かりやすく説明したつもりでも、生徒の視点で考えると案外分かりづらい説明をしているときがあります。質問しやすい雰囲気の中で、生徒とのやり取りを十分に行いながら授業を進めることも大切です。見付かったエラーによっては、指導方法を見直すことも視野に入れましょう。

output活動

Information Gap Game

新出構文の定着のためにコミュニケーション活動を行います。本時は information gap を利用した活動の中で、input された英語の知識を適切に使わせることによって、基本文の定着を図りました。ここでは、information gap があり、対話例を省いたワークシートを利用した output 活動を行いました。また、効率よく会話の相手を探し出すために、ワークシートの色を2種類（白色とピンク色）準備しました。ワークシートの端をマーカーで色付けするだけでも、会話の相手を見付けやすくなります。今回のように時差を扱った題材の時は、世界地図上に時刻を記入するワークシートにすると、より具体的なイメージをもたせることができます。

() 年 () 組 氏名 ()

(1) 別の違うワークシートを持っている人にインタビューしよう。

あなたが訪ねてあげるところ			あなたが訪ねてくること		
都市	時刻	天気	都市	時刻	天気
Cairo	午前 8:00		London	午後	
New York	午後 10:00		Tokyo	午後	
Mexico City	午後 9:00		Sydney	午後	

※午前、午後は口で読む。
※天気は英語で書く。難しいときは絵で構わない。

(2) インタビューを再開しよう。

★このワークシートの
① 情報を聞く。② 答えをたずねる。③ 答えを聞く。④ 答えをたずねる。
⑤ ①②③④で決まらなければ⑤の①に戻ってやる。質問や情報を書き出していれば、その情報は「書き出した」となる。

1 (自分)
.....
.....

2 (相手)
.....
.....

3 (自分)
.....
.....

4 (相手)
.....
.....



タスク活動と、information gap活動と、ドリル活動の違いは何ですか。

information gap活動もドリル活動も、タスク活動の基礎となります。

新しい文型を勉強したら、定着を目的として、文の入れ替え練習をしますよね。これがドリル活動の代表的なものです。

information gap 活動とは、生徒の間に情報のずれを作り出して、与えられた文型を参考にしながら、会話によってずれを埋めていく活動です。自分のもっていない情報を、情報をもっている生徒から引き出して、課題の解決を行います。その際、生徒は input した新文型に関する知識を活用して課題の解決に当たります。

タスク活動では、会話によって解決すべき状況の提示があるだけで、文型の制約がありません。これまでに input した知識を総合的に組み合わせて、対話によって問題を解決していく活動です。言語形式の習得よりも、内容の伝達に重きがおかれています。この3種類の活動の中で、一番創造性・自由性の高い活動です。



再input活動

仕上げwriting

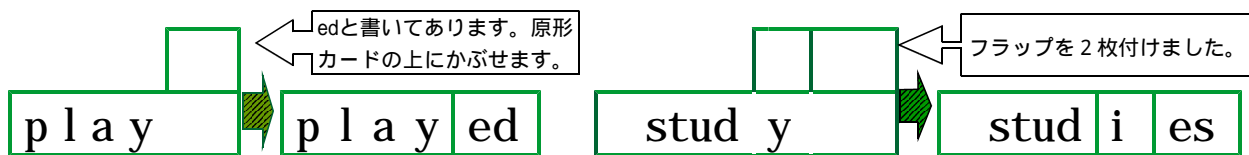
コミュニケーション活動での output 活動の後には、新出構文を確実に定着させるため、「書くこと」による再 input 活動を行います。生徒が口頭で活動した内容をワークシートに書かせ、それを教師がその場で修正フィードバックします。生徒はエラーを修正して、正しい知識を再 input します。活動の早期段階でエラーを発見するために、ワークシートに2文書いたら教師の修正フィードバックを受けに来る、という約束にしました。このワークシートの表には、書く欄を4行しか設けていません。一定時間内に4文書くことをこの活動の B 基準と決めました。この授業では、すべての生徒が4文書くことができました。また、ワークシートの裏にも書く欄を設けています。「紙を裏返す」ことで、生徒たちは B 基準をクリアしたことを実感します。

ワンポイント 紹介【flash cardの提示方法】

flash card は瞬間的に見せて発音練習をしたり、意味を確認するために使います。新出単語の導入に活用したり、復習読みの前に活用したり、まとめに活用したり、と様々な使用方法があります。ここでは、flash card そのものを一工夫してみました。

こんなカードを作ってみました その1

“三単現のs”、現在分詞、規則動詞の過去形、可算名詞の複数形などは、原形カードに“s”や“ing”、“ed”のフラップをセロテープで取り付けて提示すると、原形と比較しながらの発音練習が容易になります。



こんなカードを作ってみました その2

個人用の単語カードを各自作らせて持たせておくと、ペアで flash card 活動ができます。教師が読み上げる単語を取り合うカルタも手軽にでき、語彙の復習活動が容易にできます。また、家庭での復習の際も大いに役に立ちます。

工夫しました！「単語input用ワークシート」

「書いて覚える」とよく言われますが、たくさん書くことで、本当に単語を記憶するのでしょうか。たくさん書くことが負担になって、「書くだけ」になっていないでしょうか。この懸念を払拭するために、単語シートに書かせる回数を減らし、生徒に空書きをさせ、覚えたらワークシートに3～4回書く活動を提案します。簡単な単語は数回の空書きで単語シートに単語を書き入れ、難しい単語は何回も空書きをしている姿が見られるようになりました。このワークシートは、書く活動の後に、ペアで pattern input 活動の要領で活用できます。

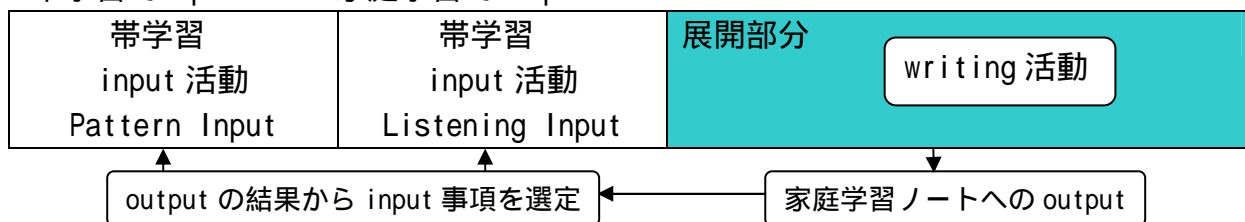
1年 Unit 7 アメリカの学校から(世界の時刻) pp. 58-59

単語	意味	空書きして、覚えたら2回書こう!	
time	時刻、(時刻の)時間・時	time	time
afternoon	午後	afternoon	afternoon
weather	天気、天候	weather	weather
sunny	晴れの、晴れた	sunny	sunny
New York	ニューヨーク	New York	New York
evening	晩、夕方、夜	evening	evening
cloudy	曇りの、曇った	cloudy	cloudy
o'clock	...時	o'clock	o'clock
how's	how isの縮約形	how's	how's
What time is it?	何時何分?		

3 パタン3

帯学習でinput

家庭学習でoutput



中学3年 T1・T2・ALTによるTTでの授業事例

(1) 単元について

ア 現在分詞の形容詞的用法

3年生では、現在分詞や過去分詞の後置修飾や接触節、関係代名詞などを勉強しますが、これらの文法項目は、日本語とは語順が異なり、1年生や2年生で学習した進行形や動名詞の用法、受動態との混乱などがよく見られます。生徒がつまづきやすい文法事項の一つです。

T1・T2・ALT3人によるTTを取り入れて学習集団を細分化し、生徒の活動量を増やします。活動の際、複数教員によって、様々な角度から修正フィードバックを行うことができます。



授業中 input した構文については、家庭学習ノートにoutputさせます。TTでは、教師一人当たりのノート数も分け合えるので、丁寧にチェックすることができます。

イ 指導の特徴

T1・T2・ALTの3人による一斉指導において、帯学習によるinput活動を取り入れます。

帯学習 Pattern Input...既習文型を、「読む・覚える・書く」の3つのコースから選んで、暗記・暗写を目標にペアで活動します。

帯学習 Listening Input...教師がTTで、Teacher Talk します。その後、内容についてQ&A 5問とスクリプトに題名を付ける活動を行い、理解度を確認します。

ウ 本單元における「input - outputの循環」

展開部分で新文型を学習します。(input活動)

学習した新出構文を応用して、定期的に家庭学習ノートにoutputします。

教師は、生徒のノートから、帯学習 Pattern Inputのワークシートに取入れる構文を選びます。

ノートの修正フィードバックの結果から、定着度が低い部分やよくある間違いを拾い上げて、帯学習のワークシートや、帯学習 Listening Inputのスクリプトに入れ、理解と定着を促します。

エ 本單元における「writing活動」

展開部分に2種類のwriting活動を設けました。

creative writing : 家庭学習ノートに日記を書いたり、新出構文を使った作文をしたりします。

仕上げwriting : 展開部分の学習のまとめとして、3分間writingの要領で実施します。

(2) 単元の指導目標

言語活動への取組を通して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育てます。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

現在分詞・過去分詞の形容詞的用法と接触節について理解させ、適切に用いて表現させます。

【言語や文化に関する知識・理解】【表現の能力】

文の内容を理解し、正しく音読させます。

【理解の能力】【表現の能力】

(3) 単元の指導・評価計画（全7時間）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		言語・文化に関する知識・理解		単元の流れ		
	活動への取組	コミュニケーションの態度	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	知識	理解	帯学習	帯学習	展開部分
1時間目(本時)		S	S		L				Pattern Input	Listening Input	
	SW		W							Picture Describing	
2時間目		S	W					W		Check The Point	
3時間目	R		R		R					音読練習	
					R					内容読解	
4時間目			W					W		音読、内容読解	
	R		R		R						
5時間目					L				Listening Input		
	W			W					Speaking T 原稿作成		
6時間目	WL			W	L				Check and Use / 原稿		
		S	S			L			スピーキングTペア練習		
7時間目	S			S	L				スピーキングテスト		

この単元では、プログラムの最後にスピーキングテストを行います。ここでのスピーキングテストは、写真などを見せながら、職場体験で学んだことや自分の将来について自分なりの考えを英語で言えるということを目指しました。生徒たちは、教科書の内容理解やスピーキングテストを通して、言語の運用力を高めるだけでなく、自分の適性や進路について深く考えることができました。また、スピーキングテストの原稿作成の際には、帯学習のPattern Inputで習得した基本文を応用していました。

(4) 帯学習の実際

帯学習

input活動

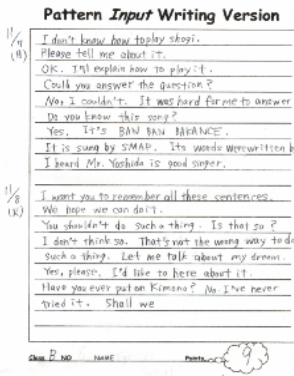
Pattern Input

既習文型の完全習得を目指します。教科書のターゲットセンテンスや生徒がoutputした文章を一覧表にして、次の手順でペアによるinput活動を継続的に行います。

ア 教師によるrepeating：ALTの音読について、生徒はrepeatします。T1，T2は、机間指導中にエラーやつまずきに対して修正フィードバックをします。

イ ペア活動：ワークシートを交換し、Aさんがワークシートの英文を音読します。Bさんはその英語を聞いて、チェック欄に「レ」を記入します。1分ごとに役割を交代し、2～3回繰り返します。時間は教師が計ります。

本時は、Pattern Inputの取り組み方として、「読む・覚える・書く」の3コースを設定しました。選択については各個人の希望に任せています。活動の難易度が「読む」「書く」に向かって上がっていくので、「読む」ができれば、次の段階に進むように決めています。教科書に載っている基本文については、書けるようにならなくてはなりませんので、口頭練習ばかりでなくwriting versionのワークシートに暗写する活動も、適宜取入れます。基本文の定着については、第6時のCheck & Useや、第7時のスピーキングテストで見取ります。



僕の書いた英文が載っているぞ！



「彼を！～を」の列だよ！！

生徒たちは、この活動を通して、パートナーのヒントの出し方次第で暗唱がスムーズにできることを体感しました。そして、生徒たちは、ヒントの出し方を工夫するようになりました。その結果、自分自身の連語の習得や語順確認にも役立ちました。

Pattern Input活動で使用するワークシートの例文は、生徒自身が授業中の活動や家庭学習ノートの中でoutputした文章を使いました。教科書のターゲットセンテンスや本文からの抜粋を編集したものよりも、生徒の学習意欲を高め、定着度も上がりました。

教科書の基本文中心の Pattern Input

教科書の基本文を中心としたワークシートを使ってinput活動をします。

家庭学習ノートへのoutput

No.	Pattern Input (program 1-2)	Output
①	Have you ever visited Japanese school? No, I haven't. This is my first time.	今までに日本の学校へ行ったことがありません。これが初めてです。
②	Have you ever seen Meta-furyu? Yes, I've seen it many times.	今までに米多浮立を見たことがあります。はい、何回も見ました。
③	Have you finished your lunch yet? Yes, I've already finished it. No, I haven't finished it yet.	もう、昼ご飯食べ終わりましたか。はい、もうすでに終わりました。いいえ、まだ終わっていません。
④	How long have you been in Saga? I've been there for ten years.	佐賀にどれくらいいますか。私は、10年間ずっとここにいます。
⑤	How long are you going to stay there? I'll stay there for about a week.	あなたは、どれくらいここにいますか。私は、約一週間そこにいる予定です。
⑥	How was your trip?	旅行はどうでしたか？

今日の一文
Rather, it has taught me my unique role.
→まあ、それは私に独特の役割を教えました。

Pattern Input
① I don't know how to play it. → どうやって遊ぶかわかりません。
1) I know how to cook takoyaki. → たこ焼きの作り方が分かります。
2) I don't know how to use a computer. → コンピューターの使い方が分かりません。
3) Do you know how to play the guitar? → ギターの弾き方が分かりますか？

② It was hard for me to answer it. → 答えるのが難しく感じました。
1) It's important for us to study. → 私たちにとって勉強は大切です。
2) It's easy for him to play soccer. → 彼にとってサッカーは簡単です。
3) It was hard for me to cook it. → 私が料理するのは難しく感じました。

③ It is sung by SMAP. → それはSMAPによって歌われています。
1) It was written by Sogata. → それはソガタによって書かれました。
2) It was made by her. → それは彼女によって作られました。
3) It was sung by Mr. Yoshida. → それは吉田先生によって歌われました。

④ We asked him to sing Hana. → 私たちは彼に花を歌うように頼みました。
1) I asked her to help me. → 私は彼女に私を助けてくれるように頼みました。
2) He asked me to write my name. → 彼は私に名前を書くように頼みました。
3) We asked her to play the piano. → 私たちは彼女にピアノを弾くように頼みました。

⑤ He is good at drawing funny pictures. → 彼は面白い絵を描くのが得意です。
1) I'm good at speaking English. → 私は英語を話すのが得意です。
2) He is good at playing sports. → 彼はスポーツが得意です。
3) She is not good at cooking. → 彼女は料理が得意ではありません。

OK. I'll explain how to play it. (作)	3	いいよ、僕がそのやり方を説明しよう
Could you answer the question? (作)	4	その質問に答えられましたか。
No, I couldn't. It was hard for me to answer it.	5	いいえ、それに答えるのは僕には難しかったです。
Do you know this song?	6	この歌知ってる。
Yes. It's BAN BAN BACANCE..	7	はい、それはバンバンバカンスだよ。
It is sung by SMAP.	8	それは、スマップに歌われているんだよ。
Its words were written by SMAP too. (作)	9	その歌詞もスマップに書かれたんだよ。
I heard Mr. Yoshida is a good singer.	10	吉田先生、歌上手らしいよ。
I know. We asked him to sing Hana. (参考)	11	知っている。僕たち彼に花を歌ってくださるように頼んだんだよ。
Was this comic written by Eiji?	12	この漫画、栄二に書かれたの？
Yes, it was. He is good at drawing funny pictures.	13	うん、彼は絵を描くのが得意なんだ。
Jaimini is not only beautiful but also kind.	14	ジェイミニは綺麗だけじゃなく優しいよね。
That's right. She is always kind to everyone.	15	その通りだね。彼女はみんなに親切だね。
what language are spoken in your country?	16	君の国では何語が話されるの。
Japanese and Saca-ben are spoken in our town.	17	私たちの町では、日本語と佐賀弁が話されるね。

授業での Pattern Input のワークシートに、家庭学習ノートから生徒作品を取り入れます。

生徒の作品を活用した Pattern Input シート例

帯学習

input 活動

Listening Input

TT 授業に帯学習として5分ほどの teacher talk による Listening Input を行います。生徒が理解できる言語レベルにほんの少しだけ新しい情報を付け加えてスクリプトを完成させましょう。Pattern Input とは違い、この活動では自然な言語習得を目指します。題材は生徒にとって身近でユーモアのある題材を取り入れましょう。teacher talk を聞きながら、生徒が笑ったり、首を傾げたりといった反応をするかどうかで、大まかな理解度をつかむことができます。また、teacher talk の内容が理解されているかどうかを測るために、Q&A 5問と、スクリプトにタイトルを付ける作業を行います。

スクリプトには未習の単語や表現を意図的に入れることで、語彙力を高め、予測しながら英語を聞き取る練習をしています。文化の違いや感覚の違いなど新しい発見があるスクリプトを作成しています。teacher talk の背景にある異文化に関する予備知識が必要な話題の場合、理解が難しかったようです。しかし、どの生徒も回数を重ねるごとに正答率が上がってきました。同時に、笑いのオチを理解できるようになり、生徒が笑う場面が見られるようになりました。現在は、多少分からない単語が混じっていても、内容を大まかに聞き取ることができる生徒が増えてきました。

Let's Enjoy Listening Time	
Notes	New words or useful words
04-2 サラダ ↑ トマトソース、マヨネーズ、マッシュポテト、ジャガイロ ローストチキン マヨネーズ マッシュポテト	horrible ↔ kind ひるい bully ひるい allergic / allergy アレルギー sneeze せき cough せき cockroach コクroach pay はらう pepper ぺpper
Did you understand? 1 Bad 2 Not good 3 Good 4 very well	
Answers 1. レストラン 2. グリーンサラダとローストチキン 3. コレクションビル 4. コクroach 5. 昔、いじめが流行りから。	
今日の会場のトピック 吉田先生 かしこめ	

生徒は、ワークシートにメモを取りながら teacher talk を2回聞きます。1回目に聞いた時には、ほとんどの生徒が1~2問しか答えることができませんでした。Q&Aの後に、2回目の teacher talk を行くと、ほぼ全部の質問に答えることができました。新出語句やQ&Aを聞くことがヒントとなって、リスニングのポイントを絞りこんでいます。ジェスチャーや声色も大きなヒントとなっています。

活動後に配布するスクリプトを家庭学習ノートにはって訳す生徒もいます。



スクリプト冒頭

At the restaurant

3 people: waiter, and two friends.

New words horrible bully allergic cough sneeze
 cockroach pepper pay

Waiter: (speaking to the audience).

Those people standing there were horrible to me at school!!

They were bullies!! (To 2 people) Can I help you?

J: A table for two, please. K: Wow this is a nice restaurant!

W: Follow me. (At the table)

J: Look at the waiter standing over there!

K: Do you mean the one holding the glass?

J: Yes, I think I know him.

K: No, I don't think you do!! Let's order I am hungry!!

J: Ok.

スクリプトに対する Q5 題

【QUESTIONS】

- 1) Where are they?
- 2) What food does Kawakami sensei order?
- 3) What is Jaimini allergic to?
- 4) What does Yoshida sensei put in Kawakami's food?
- 5) Why does Yoshida sensei put something in Kawakami sensei and Jaimini's food?

展開部分

input 活動

Picture Describing (口頭活動)

ここで学習する現在分詞の後置修飾構文は、日本語とは異なる文構造をもち、定着に時間がかかる構文の一つです。口頭による input 活動量を確保するために、学級集団を指導者数のグループに分けて活動しましょう。

新出構文を定着するための口頭練習による input 活動として、ここでは Picture Describing を行いました。ワークシートの文例に従って、それぞれの絵の人物についてペアで説明をします。会話の最後には、自分の考えや気持ちを表現した文を1文加えさせます。会話に創造性が加わり、表現したいという欲求が起きます。また、生徒の発話を直接確認する中で、基本文以外でのエラーを発見することもでき、訂正が容易になり、より正確に学習事項の定着を高めることができました。

【Picture Describing - 会話編 -】

Please explain にのっている人物について説明しなさい。

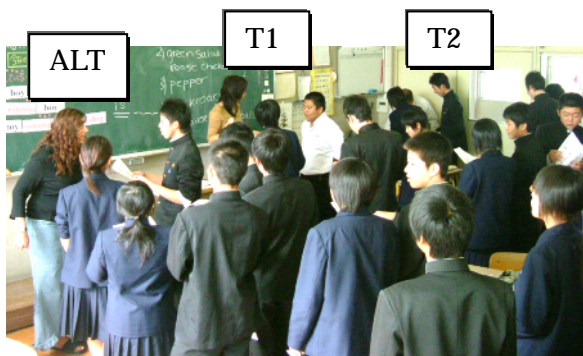
J's World【 尋ね人の世界】
 A: Who's the boy running with a dog?
 B: Well..... The boy running with a dog is Shohei.
 A: I see. He's nice.

Mr. Y's World【 人探しの世界】
 A: Can you find the man reading under the tree?
 B: The man reading under the tree is Taro.

Ms. K's World【 お願いの世界】
 A: Look at the woman singing an English song.
 B: Yes. The woman singing an English song is Hanako.
 A: She's good at music.

条件 最後のAのせりふは話題の人物について説明すること。(オリジナルセンテンス)

Please explain!



この授業では、T1・T2・ALTの3人の教師によって、3種類の異なる対話例を提示し、全員の生徒に修正フィードバックを行うことができました。

対話例に一文付け足す活動では、これまで蓄積した知識を生かしているかが見えてきます。また、対話例を暗唱してチェックを受けるように指示したので、順番を待つ間も対話練習に取り組んでいました。

He's good at play.....

good at play... ?

あ、そうか! He's good at playing.....

input 活動

Picture Describing (仕上げ writing)

口頭活動による Picture Describing の後には、発話内容の整理のため、発話内容を書き出す活動をして、新出構文の最終的な定着を図りましょう。構文のポイントを再度押さえながら、一定時間内になるべく数多くの英文を書き、文構造を定着させます。ワークシートの表には、書く欄を5～6文分設けます。裏にも書く欄を設け、ワークシートの表を書き終えたら、裏面にも書くように指示しておきます。習熟度が高い生徒には、ワークシートの絵以外にも自由に書くよう励まし、意欲的に取り組ませましょう。口頭による input 活動の後の「仕上げ writing」を3年間継続した結果、一定時間内に、正確にたくさんの文が書けるようになりました。



1 Sentence is 1 Point

～している～

The man smoking under the tree is Mr. Nakashima.

木の下でタバコを吸っている男の人は、中島先生です。

1. The man drinking beer is Mr. Teduka.
2. The woman drawing a picture is Mrs. Kawakami.
3. The man playing gate ball is Mr. Nakashima.
4. The woman putting on kimono is Mrs. Sodashima.
5. The woman riding a bike is Ms. Masuda.
6. The woman cleaning the room is Mrs. Kitazaki.
7. The man sleeping in the class is Mr. Maruno.

8. The man catching the ball is Mr. Itoyama.
9. The woman singing a song is Ms. Kurita.
10. The man walking with a dog is Mr. Nozoe.
11. The woman reading many books is Ms. Makinodan.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

【Picture Describing ワークシートより】

取組時間：7分間



授業中の活動と家庭学習を循環させることについて、もう少し詳しく教えてください。

「第二言語習得のためには、十分な input に加えて、言葉を産出する訓練が不可欠である」という output 仮説にもあるように、言語の習得過程で使用場面を設定することが必要です。しかし、第3学年で学習する事項の中には、文構造が複雑だったり、教科書の本文の読解に時間がかかったりするなど、書くことによる output の時間を十分に確保できない現実があります。そこで、家庭学習ノートへの output を指導過程の一部として取り入れる方法を提案したわけです。

ここでは、家庭学習ノートに授業の復習として output した文章を、帯学習のワークシートに組み込む ノートに出現するエラーや、定着度の低い表現を帯学習のスクリプトに組み込む という方法で授業中の学習内容とノートに関連をもたせ、学習の循環を起こしました。



家庭学習と授業をリンクさせることは、生徒の output したものを再 input 活動に取り上げること
で、生徒のやる気を高めるといっても効果的です。そのためには、生徒が取り組む課題も工夫する
必要があります。

家庭学習ノートに関して、次のような改善をしてみました。

【従来のノート】

1 週間 3 ~ 5 ページ
単語や基本文練習



【改善後】

1 週間 3 ~ 5 ページ
生徒が課題を選択して取り組む



課題は、以下の ~ から選択制にしました。それぞれの選択する課題の数やノートに占める割合
は、生徒に任せました。

「英文日記」

英文日記の中では、過去形を中心とした
定型表現を使用した表現が多く見られます。
しかし、過去形を繰り返し使うことで、確
実に定着度が上がります。習熟度が高い生
徒や、意欲的な生徒には意見やエッセイ、
手紙を書く、といった複数のトピックも提
示し、取り組ませましょう。

「しりとり(10語)」と「今日の一文」

辞書を使って単語を 10 語書き出します。
その後、その 10 語の中から 1 語選択し作文
するか、辞書に載っている例文から選んで、
「今日の一文」として書き出します。取組の
最初の頃は、辞書を使わなかった生徒たち
が、しりとりに使った語彙を使った例文を
書くという作業を通して、辞書を使う習慣
が少しずつ定着しました。

「STUDY」

その日の学習内容の復習をします。この生徒は、新出構文を使って、対話文を書いています。

1. Diary November fifteenth Tuesday
I got up at seven ten. I was sun...
very hot today. I went to school at seven forty. I
read a book at school. I played soccer. I watched
TV last night. I listened to the radio. I
went to bed at twelve thirty.

2. Let's use a dictionary.
④ organize → ② excellent → ③ themselves
組織する (優れた優秀な) 彼自身、彼ら
編成、組織 (成り立ち) の 身、自分
④ scuba diving → ⑤ great-grand child
スキューバダイビング (潜水) 曾孫、ひまひ
呼吸の呼吸器を付けて水中
で泳ぐスポーツ)

⑥ discrimination → ⑦ nonsense → ⑧ enter
区別、差別待遇 無意味、カセス 入る、入
り、入る

⑨ ridiculous → ⑩ skin diving
ばかげた、ばかばかしい スキューバダイビング(潜水) 潜水
はかばかしい 潜水すること

<鉛文> I'd like to play skin diving.
私はスキューバダイビングをしたいです。

3. Study.
Tom has studied Japanese for three years.
Emi has wanted a piano for two years.
A: How long have you been in your club?
B: I've been in the club for a year.
A: Are you free?
B: Yes. I've been free for a week.

課題選択制の家庭学習ノートでの output は、生徒にとって時間が掛かる作業です。ノートの提出率の心配
をしていましたが、3年生の11月の時点で、ほぼ全員の生徒が取り組み、提出し続けました。

家庭学習ノート中の日記における output の変化

家庭学習で取り組んだ日記を見てみると、8月~10月と、月を追うごとに、内容が豊かになってい
ることが分かります。またどの日記も、月を追うごとに、語彙数が増えてきています。日記文特有の
表現を繰り返し使っていますが、その中でも、語句の変化が見られます。また、繰り返し同じような
表現を使用したのも、基本的な表現がしっかりと定着してきています。辞書を活用するうち、豊かで
つながりのよい内容の文章を書けるようになってきました。ノートへのアドバイスによる個に応じた
励ましや、フィードバックを通して、きめ細かな指導が可能になりました。

生徒 F の日記より

8月

1. Diary (日記)
 August 17th Wednesday.
 It was sunny to day.
 I went to school.
 I studied English and math.
 I ate riceball.
 It was very good.

10月

1. Diary (日記) October 17th Monday.
 It was sunny and little cool today.
 I went to school.
 I enjoyed it. But, I'm sleepy.
 I ate Udon.
 It was very delicious.
 I went to bed at nine o'clock.
 I had a very nice time.

生徒 G の日記より

8月

I had no piano lesson today. I was glad because
 I watched my favorite TV. I like MUSIC
 station. Today quest is KAT-TUN,
 I love KAT-TUN. They were very cool.

10月

October fifteenth Saturday
 1. Diary (日記)
 I played tennis after school today.
 I went to "tennis school" with Mr. [redacted].
 I was poor at tennis, but I can play it a little.
 After tennis school, we played a tennis match with
 Mr. [redacted] and Mr. [redacted]. We lost a match.
 After this, we played a lot of tennis matches I enjoyed it.

成果

1 input 活動-output 活動の循環と帯学習としての位置付け

本研究では、input 活動を通して平易な英語を何度も繰り返すことによって、知識の蓄積を図りました。また、積み上げた知識を使う機会を定期的に設ける中で、基礎的・基本的な表現を定着させることができました。その結果、自分が知っている言葉で自分の気持ちを相手に伝えようとする生徒が増えてきました。またその内容も、言語に関する知識に支えられ、正確で適切なものとなりました。

表現力とは、短期間のうちに身に付くものではなく、何度も話したり書いたりするうちに身に付くものです。そこには計画的で誰にでも分かりやすい授業展開が必要です。本研究では、3～5分という短い時間の input - output 活動を繰り返す中で、授業展開にリズムが生まれ、生徒が集中して取り組む姿が多く見られました。また、活動を帯学習として授業に位置付け、継続的に活動を繰り返していく中で、積極的に表現活動に取り組む生徒が増えてきました。

2 input 活動-output 活動の組合せ

パターン1, 2は、中学1年生の均一割少数人数クラスで実施しました。短時間の活動を組み合わせ、基礎的・基本的な英語の力を身に付けさせ、表現の能力の基礎を培うことにおいては、どの学年の学習指導においても効果が期待できます。習熟度別クラスで指導する場合は、生徒の習熟の程度に応じて、input と output の活動量のバランスに配慮が必要です。一般的に、習熟度が高い場合は output 活動の量や機会の多い、発展的学習を実施することができます。また、習熟度が低い学習集団の場合は、input 活動の量や機会を多く取り入れて、到達目標に達するための指導を実施します。

パターン3は、中学3年生の T1・T2・ALT による TT 授業で実施しました。ここでの実践例のように、活動の内容に応じて、T2が「個への補充的指導を行う T2」だけでなく「細分化した集

団での T1」として授業に位置付けられる場合もあります。学習集団の細分化と、個の習熟度の差に応じる指導を柔軟に取り入れていく指導形態は、1～3年生のいずれの学年でも実施が可能であり、効果が期待できます。

おわりに

本研究委員会では、平成 16 年度の佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、英語学習における問題点、そして、指導方法の改善の在り方を探ってまいりました。その中で、表現力の基礎となる英語の知識を蓄積していくことが必要であることが見えてきました。また、本県で実施されている中学 1 年生のすべての英語の時間における少人数・TT 授業の中で、自分の思いを相手に伝えようと生き生きと表現する生徒を一人でも多く育てるための指導方法を探る必要性がありました。input 活動と output 活動の循環を授業の中に帯学習として効率よく取り入れ、英語の基礎・基本を使って表現する力をスパイラル的に身に付ける効果的な指導形態が、少人数・TT 授業であると考えています。ここで紹介した授業事例を、中学校英語科の先生方の指導方法改善の参考にしていただけたら幸いです。

《引用文献》

(1) 佐賀郡中学校英語教育研究会

『Let's Talk』 p54

(2) 高橋 一幸

『チャンツでノリノリ英語楽習』 2005 年 NHK 出版 p34

《参考サイト・文献・DVD》

- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領 第 2 章 第 9 節 外国語』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm (2006/1/29)
- ・ 国立教育政策研究所 『指導方法の工夫改善による教育効果に関する比較調査研究』
http://www.nier.go.jp/shochu/shido/7_2e.pdf (2006/1/29)
- ・ 佐賀県教育委員会 『FIRST STEP』 2005 年
http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/ikuji_kyoiku/gimukyo/GIMU/download/first%20step.pdf
- ・ 佐賀県教育委員会 『NEXT STEP』 2005 年
http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/ikuji_kyoiku/gimukyo/GIMU/download/next_step.pdf
- ・ Jim Morgan 『Use of Teams in Class』
<http://lowery.tamu.edu/Teaming/Morgan1/sld001.htm> (2006/1/19)
- ・ スティーブン D. クラッシュェン, トレイシー D. テレル
『ナチュラル・アプローチのすすめ』 1986 年 大修館書店
- ・ 柳井 智彦, 田尻 悟郎, 大鐘 雅勝
『自ら学ぶ子が育つ英語科自学システム』 1994 年 明治図書
- ・ 斎藤 栄二 『基礎学力をつける英語の授業』 2003 年 三省堂
- ・ 瀧沢 広人 『中学英語 50 点以下の生徒に挑む』 2004 年 明治図書
- ・ 高橋 英幸 『文法項目別英語のタスク活動とタスク』 2005 年 大修館書店
- ・ 荒木 秀二編 『中学校英語科少人数指導の効果的展開プラン』 2003 年 明治図書
- ・ 白畑 知彦, 富田 祐一, 村野井 仁, 若林 茂則
『英語教育用語辞典』 1999 年 大修館書店
- ・ 菅 正隆, 北原 延晃, 久保野 雅史, 田尻 悟郎, 中嶋 洋一, 蒔田 守
『6 - Way Street』 2003 年 パンブルビー

佐賀っ子学力向上プラン
中学校英語科編

【研究委員】

佐賀県教育センター	吉田喜美子
佐賀市立城西中学校	家永 裕行
上峰町立上峰中学校	川上 明美

【研究協力員】

佐賀市立大和中学校	石橋めぐみ
-----------	-------